

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		望　あゆみ野大古曽			公表日		2025 年　12月　10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		安全に活動できるスペースを広くとっています			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、　職員の配置数は適切であるか。	○		欠員があった時は職員の確保に努めています	法令を遵守し適切に配置を行います。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		バリアフリーな環境で見通しをよくしています			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		安全性と快適性を確保するようにしています			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		こどもの様子や状況に応じて空間をうまく活用しています			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA　サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		朝礼、終礼非常勤者出勤時に日々の振り返りと申し送りを徹底し参画しています。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			保護者の思いを大切にした支援や連携の強化に向けて保護者のニーズを把握できるような関係性を築いていけるようにします		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々のケアの中で気がついたことなどはその都度話し合い業務改善につなげています。	今後も職員間の連携と連絡の共有ができる環境作りをします		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内での全体研修が難しい時は個人研修をしています。テーマ・内容について考慮していきます。	積極的な参加への声掛けと時間の確保が取れるように配慮が必要です。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		独自のアセスメントシートを活用し、それをもとに計画を作成しています。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○					

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で意見を出し合える体制作りをしPT・OT・看護師の指導を含め行っています。	職員それぞれの視点をプログラムに反映させていくことが必要です。本人と保護者の要望も盛り込んでいきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		こどもの意欲関心を引き出せるように保護者や外部からの情報を生かして年齢や季節感を考慮したり工夫に繋げています。	子どもの体調に合わせ内容を変えたり細やかな対応が必要となります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		臨機応変に内容を変えるなど工夫をしています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		非常勤職員にも出勤直後に職員間での打ち合わせ引継ぎをしホワイトボード記載のタイムスケジュールで確認をした上で内容の周知をしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		情報を職員間で振り返りを行い気付いた点や支援につながる改善点など次回の打ち合わせをし共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個別支援日誌業務日誌への記録を徹底し支援の検証改善につなげています。保護者と写真動画による記録の情報共有しています。	一時的か続いているかなど明確に記録していきますプライバシーへの配慮と個人情報の管理を徹底する必要があります。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングを定期的に行い見直しの必要性を判断しています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		複数組み合わせでの支援に取り組んでいます。	4つの基本活動を念頭に独立しないを配慮していきます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		依頼時にはできる限り参加をしています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要な時は連携をとっています。関係者・関係機関より見学依頼や問い合わせはお受けし連携の機会につなげるよう努めています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者を介して行事や下校時間などの情報を得たり学校への迎え時に申し送りを受け必要な時は電話連絡をしています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて情報共有と相互理解に努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		保護者から丁寧に聞き取りをし支援につなげていきます	情報提供はその都度行っていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		長期休暇などを利用し今後交流の場を設けていきます。	利用者のニーズに合わせて検討していきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		参加していないので機会があれば参加できるようにしていきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談があった場合はその都度対応していきます。	必要に応じて面談をしています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		父母の会の活動を支援したり保護者会やきょうだい会などを開催することにより保護者同士の連携を支援していきます。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		○		定期的な通信などの発行に力をいれ日々の活動の様子や支援内容や予定などを発信していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報のなどのカルテは鍵付きキャビネットに保管し携帯電話の管理も徹底しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもへの声掛けをし表情や体現からのサインを読み取るようにしています。保護者には分かりやすく丁寧に話をするように心がけています。	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域の方に気軽に訪問ご相談いただけるように取り組んでいます。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			各マニュアルを策定しているが保護者に周知はしていません。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		ご利用開始前にアセスメントシートを活用し確認しています。てんかん発作時の個々の対応方法の確認を情報共有しています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		ご利用開始前にアセスメントとり保護者にアレルギーの有無について確認しています。	食物アレルギーのある子どもについて医師の指示書に基づき食事の対応をします。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		家族への周知が不十分です。事業所内に掲示したり発信していきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		独自のヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待研修を行っています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束必要の適正化を図るために必要な体制研修を行っています。	今後も慎重に検討していきます。やむを得ない場合は保護者に十分説明し同意書を記入いただき詳細を記録で残していきます。

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 望 あゆみ野大古曽

公表日 2025年 12月 10日

利用児童数 1

回収数 1

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					ワンフロアで十分な活動スペースを確保しています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。		1				職員の変動があることがありますが配置数適切です。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。		1				全体が見渡せるバリアフリーの空間になっています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。		1				環境整備、美化に努め、過ごしやすい環境を工夫しています。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					情報は共有し支援の方向性を固め実践しています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1					合っていると思われます。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					子どもの特性を理解し専門性を生かした計画を立てるよう心がけています
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					具体的に支援内容を分かりやすく説明できるよう努めます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					その日の体調に合わせて内容を変更をしたり調整していきます。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。		1				放課後の短時間の中での取り組みを考慮していきます。
保護者 への 説明等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。			1			長期休暇を利用して交流を計画します。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					契約時になるべく分かりやすい説明を心がけています。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					支援計画を提示して分かりやすく説明を行うように心がけています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。			1			現在開催していませんが今後開催を検討していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	1					些細なことでも伝え合える関係作りをしています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。		1				定期的な面談は行っていないがその都度助言や支援を行っています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					家族支援にもつながる支援を配慮しています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			1			今後保護者会を開催し保護者同士の連携やきょうだい同士の交流の支援をしていきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					いつでも相談しやすい雰囲気作りに努め必要に応じて面談などを行っています。

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					子どもの表情や体現の変化に気を付けています。LINEや個別支援への記録のコピーや電話を活用しています。
--	----	---	---	--	--	--	--	---

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。			1		今後は定期的に会報等を発行していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1				個人情報の取扱いには細心の注意を払っています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。			1		各マニュアル、災害訓練時の様子を保護者にお伝えできるようにしています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。			1		災害時、震災時の避難訓練を行っています。実施日は時や体調を考慮して設定していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。			1		安全計画をお知らせいたします。各設備の安全点検も怠らないように留意しています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1				事故が発生した際は、速やかな連絡と詳細を説明します。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1				子どもたちが安心安全に通所できるように配慮していきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1				通所を楽しみにしていただけるよう職員一同尽力していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	1				子どもたちご家族職員一同が共感し楽しめる事業所を目指していきます。

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	望 あゆみ野大古曽		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 30日 ～ 2025年 11月 6日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○従業者評価実施期間	2025年 10月 30日 ～ 2025年 11月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職配置と連携の充実ができています。	利用者や家族の変化をすぐにチームで共有し「気づき」に基づく支援に取り組んでいます。	専門性を活かし、より多様な個別プログラム（感覚遊び・リハビリ的活動など）を展開していきます。
2	生活介護との連続性による切れ目のない支援をしています。	支援計画の流れが途切れないようにアセスメントや個別支援計画を連続的に扱う仕組み作りをしています。	生活介護との情報交換や交流の機会を継続して設け、利用者が安心して移行できるよう、見通しのもてる支援体制をさらに整えていきます。
3	少人数制による個別支援と異年齢交流の場があります。	スタッフが利用者一人ひとりの変化に気づきやすい環境を整え、柔軟に支援を調整しています。	誰が対応しても統一した支援ができるよう取り組んでいます。勉強会を開催・研修に参加し専門性を高めいきます。デイサービスの高齢者・学童他学年児童との交流の機会を設けていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	少人数制がゆえに交流や活動が限られやすいことです。	少人数で安心して過ごせる一方で、関わる相手や活動が固定されやすく、交流が少なくなってしまうです。	無理のない範囲で新しい活動や外とのつながりを取り入れ、楽しい経験が増えるよう工夫していきます。
2	看護師が不足しており、利用に制限が生じていることです。	医療的ケアの状況によっては、利用に制限が生じてしまうことがあります。	今後は、看護体制を少しずつ整えられるよう、人材確保や外部機関との連携の工夫に取り組み、できる限り安心してご利用いただける環境づくりを進めてまいります。
3			

事業所名		望あゆみ野大古曽（児童発達支援）					支援プログラム		作成日		2025	年	12	月	1	日
法人（事業所）理念		子どもからお年寄りまでが立場を超えてささえあい生きる喜びに満ちた愛が循環する社会を目指します。														
支援方針		児童発達支援事業では、日常生活における基本的動作及び知識技能を習得し、並びに集団生活に適應することができるよう利用児の意向、適性、障がいの特性その他の事情を踏まえて、利用児に対してその人格を尊重し、常に利用児の立場に立った福祉サービスの提供に努めます。 また、関係法令を遵守し、他の社会資源との連携を図った適正、且つ、きめの細かい支援を行います。														
営業時間		(平 日) 10 時 0 分から 17 時 0 分まで					送迎実施の有無		あり なし							
		支 援 内 容														
本人支援	健康・生活	・日々のバイタルサインや全身状態の観察を通じて、様子を把握し共有します。 ・心と体をリラックスできる環境を作っていきます。 ・座位や可能であれば、立位をキープしながら、マッサージや手遊びを通じてなど快の刺激を感じたり、日常的な遊びや運動を通じて、自ら手を伸ばしたい、見たい等自発的な気持ちを育てることで安全で無理なく、体の変形や拘縮を予防します														
	運動・感覚	・視線入力でゲームをして、的に当たると振動を感じる機器などにより、動作と揺れがつながっていること、自分の更衣が揺れにつながっている感覚を感じる。医師の指示の下、理学療法士や作業療法士による歩行訓練や運動を行う。自発的に動くのが難しい子の場合、他動的にでも大きく動かすことができる。運動や振動の刺激の体験によって「身体意識」を育んでいきます。 ・子ども自ら腕を伸ばすような運動を取り入れた活動をおこなうことで、楽しみながら安全に、自発的な動きを引き出していきます。 ・歩行訓練や運動は、その時の子どもの表情や仕草など、よく観察しながら活動をおこない、一人一人に合った支援の方法で活動を提供します。														
	認知・行動	・楽しいことや好きなことをベースとして、五感に働きかける活動の企画、提供をします。様々な体験から身体運動、感覚機能、認知機能の発達を促します。														
	言語 コミュニケーション	(コミュニケーション士づくり) 見る・聴く・触る・揺れるなどの遊びを経験し、自分の外からの刺激に慣れていけるようにします。人とのやり取り、遊びを通して人への意識を高めていきます。声や動きを通しての発信を受け止め、発信する力を強めていきます。玩具や絵本、写真などを通して遊びや興味の幅を広げていきます。														
	人間関係 社会性	・職員とたくさん触れあい、声掛けをしていくことで信頼関係を構築できるように支援をしていきます。 ・お友達の輪の中で過ごし、お友達を意識できるように支援をしていきます。														
家族支援		・保護者同士、子育ての喜びや悩み、これからの見通しなど希望があれば、思いを共有する場を作っていきます。					移行支援		・就学に向けての関係機関との情報共有を行います。							
地域支援・地域連携		・保護者の気持ちに寄り添いながら、病院や並行通園先の幼稚園・保育園の先生、訪問リハや在宅医などの関係機関と連携し、地域の中で安心して暮らせるように支援をしていきます。					職員の質の向上		・虐待防止に関する研修 ・感染症に関する研修および訓練 ・安全管理に関する研修（事故防止、応急手当、防犯等） ・発達に関する研修（外部研修・内部研修）							
主な行事等		・誕生日会、夏祭り、クリスマス会、季節の制作、視線入力の大会等														

事業所名		望あゆみ野大古曽（放課後等デイサービス）						支援プログラム		作成日		2025 年		12 月		1 日	
法人（事業所）理念		子どもからお年寄りまでが立場を超えてささえあい生きる喜びに満ちた愛が循環する社会を目指します。															
支援方針		放課後等デイサービスでは、日常生活における基本的動作及び知識技能を習得し、並びに集団生活に適応することができるよう利用児の意向、適性、障がいの特性その他の事情を踏まえて、利用児に対してその人格を尊重し、常に利用児の立場に立った福祉サービスの提供に努めます。 また、関係法令を遵守し、他の社会資源との連携を図り適正、且つ、きめの細かい支援を行います															
営業時間		（平 日）14 時 0 分から 17 時 0 分まで						送迎実施の有無		あり		なし					
営業時間		（休業日）10 時 0 分から 17 時 0 分まで						送迎実施の有無		あり		なし					
		支 援 内 容															
本人支援	健康・生活	・日々のバイタルサインや全身状態の観察を通じて、様子を把握し共有します。 ・心と体をリラックスできる環境を作っていきます。 ・座位や可能であれば、立位をキープしながら、マッサージや手遊びを通じてなど快の刺激を感じたり、日常的な遊びや運動を通じて、自ら手を伸ばしたい、見たい等自発的な気持ちを育てることで安全で無理なく、体の変形や拘縮を予防します															
	運動・感覚	・視線入力でゲームをして、的に当たると振動を感じる機器などにより、動作と揺れが繋がっていること、自分の更衣が揺れに繋がっている感覚を感じる。医師の指示の下、理学療法士や作業療法士による歩行訓練や運動を行う。自発的に動くのが難しい子の場合、他動的にでも大きく動かすことができる。運動や振動の刺激の体験によって「身体意識」を育んでいきます。 ・子ども自ら腕を伸ばすような運動を取り入れた活動をおこなうことで、楽しみながら安全に、自発的な動きを引き出していきます。 ・歩行訓練や運動は、その時の子どもの表情や仕草など、よく観察しながら活動をおこない、一人一人に合った支援の方法で活動を提供します。															
	認知・行動	・楽しいことや好きなことをベースとして、「こころ・からだ・あたま」に働きかける活動の企画、提供をします。様々な体験から身体運動、感覚機能、認知機能の発達を促します。															
	言語コミュニケーション	（コミュニケーション土台づくり）見る・聴く・触る・揺れるなどの遊びを経験し、自分の外からの刺激に慣れていけるようにします。人とのやり取り、遊びを通して人への意識を高めていきます。声や動きを通しての発信を受け止め、発信する力を強めていきます。玩具や絵本、写真などを通して遊びや興味の幅を広げていきます。															
	人間関係社会性	・職員とたくさん触れあい、声掛けをしていくことで信頼関係を構築できるように支援をしていきます。 ・お友達の輪の中で過ごし、お友達を意識できるように支援をしていきます。															
家族支援		・保護者同士、子育ての喜びや悩み、これからの見通しなど希望があれば、思いを共有する場を作っていきます。						移行支援		・進級、進学、卒業後の生活介護利用に向けての関係機関との情報共有を行います。							
地域支援・地域連携		・保護者の気持ちに寄り添いながら、病院や小学校の先生、訪問リハや在宅医などの関係機関と連携し、地域の中で安心して暮らせるように支援をしていきます。						職員の質の向上		・虐待防止に関する研修 ・感染症に関する研修および訓練 ・安全管理に関する研修（事故防止、応急手当、防犯等） ・発達に関する研修（外部研修・内部研修）							
主な行事等		・誕生日会、夏祭り、クリスマス会、季節の制作、調理活															